

ムービー・エッセイ

これだけは見逃せない邦画・洋画セレクション

淵辺 俊一

ライムライト



昔、一世を風靡し、今は落ち目の年老いた道化師カルペロは、ある夏の夕暮れ酔って帰ったアパートで、ガス自殺を図ったテリーという名の若く美しいバレエの踊り子を、間一髪助けることになる。テリーは実の姉が、結婚までして自分をバレリーナに育てようとしていた事実を知り、そのショックが原因で両足が麻痺し、それを悲観して自殺を図つたのだ。何故そのまま死なせ

なかつたのか、と泣き崩れるテリーを、カルペロは辛抱強く慰め、励まし続ける。彼は言う。「人生は素晴らしい。ただし、それには三つのことが必要なんだ。勇氣と想像力と少しのお金」。彼の献身的な介抱の甲斐あって、テリーは見事に立ち直り、遂にプリマドンナにまで成長する。一方励まし続けたカルペロは、皮肉にも落ちぶれていくばかり。

今は酒の勢いを借りなければ舞台にも立てなくなったカルペロを、逆に励ます立場のテリー。彼女は昔の初恋の作曲家に求愛されながら、それに応えようとせず、カルペロに心からの愛を打ち明け求婚する。

カルペロは彼女との年の差や境遇の違いに、同情は「勘弁をとばしに落ちぶれて元を去り、ドサ周りへと更に落ちぶれていく。月日が流れればドン公演の最中、カルペロを探し当てたテリーは、今でも変わらぬ深い愛を告げた上で、とても大切なシヨウをやるので私を助けて」と懇願する。カルペロはテリーを成功させようと、とっておきのネタを準備する。会場は満員、それはテリーが用意したサクラ。彼に自信を与えようと観客を動員し、喝采してくれるように頼み込んだのだ。ここから最後の、

誰もが忘れることの出来ない、あの名場面へと一気に進むのである。全編に流れる主題歌「テリーのテーマ」は甘く、切なく、この映画を不朽の名作にするのに一役買っている。この作品の見所の一つは、随所に散りばめられているチャップリンの珠玉のような名セリフ。冒頭の「人生は素晴らしい。ただし……」という所もそうだが、私には彼が自衛的につぶやく

「道化に人生は重すぎる。」と言うセリフが、妙にリアルで何故か心に残った。当時の私の生き方を道化に重ねてしまったせいなのだろうか。確かにこの職業は辛そうだ。生老病死、四苦八苦の世の中を道化も生きていくわけで、道化を装い、人を笑わすことの難しさは飾を重なるほどに募るのだろう。晩年、彼はインタビュアーの、今度生まれきててもまた喜劇をやりますか?との質問に「いや、もう喜劇はいい。今度は悲劇をやりたい。」と言います。

何故悲劇なのですかとの問いに、しばらく考えて、「悲劇には、美」がある」と応えている。実生活では映画とは異なり、年の差は障害にならなかつたらしい。1943年、チャップリンが53歳の時に、26才年下のウーナ・オニールと4度目の結婚をしている。ヒロインのテリーを彷彿とさせるウーナは、ノーベル文学賞に輝いた劇作家ユージン・オニールの娘で、チャップリンがクリスマスの朝88才で天寿を全うするその日まで、仲睦まじく34年連れ添い、その間に8子をもうけている。

この映画は1952年制作のアメリカ映画で、舞台は1914年のロンドン。喜劇王チャールズ・チャップリンが原作、脚本、制作、音楽、監督、主演した晩年の傑作。カルペロ扮するチャップリンは、この時63才。彼が初めて素顔で出演した作品である。ヒロインのテリーとクレア・ブルームは、バレリーナ出身でこの映画が出世作となった。ちなみにライムライトとは、昔、舞台に使われた照明器具のことで、「名声」という別名がある。

RIKEN (有)リケンオキナワ

Since 2003 不動産のことなら 沖縄県知事(1)第3570号

(有)リケンオキナワビル5F



〒900-0006 那覇市おもろまち4丁目7番18号(リケンオキナワビル5F)
TEL: (098) 941-5650 FAX: (098) 941-5651

業務内容

- 不動産・土地・建物・アパート・マンション即買取り致します
- (土地・建物・軍用地)売買・斡旋
- 賃貸管理業務
- 駐車場企画管理業務
- 建物企画管理業務
- 競売手続代行業務
- 保険事業部損害保険代理店